

アメリカンポップ&ロック



ゴスペルクワイアー



CONTENTS

- ① イベント
- ② コラム
- ③ ご案内

開催
しました

政令指定都市移行・区制施行20周年

タヒチアンダンス



国際 ふれあいフェア 2023

フラ



ベリーダンス



二胡



10月8日(日)秋晴れの下、国際ふれあいフェアを開催しました。今年は浦和駅開業140周年ということでJRと連携し、JR浦和駅催事スペースでもイベントが行われました。

会場内には世界の雑貨やグルメの店があり、特設ステージでは、ハワイ舞踊、ベリーダンス、インドのポリウッドダンス、ゴスペルクワイアー、二胡の演奏などが繰り広げられました。最後のブラジルサンバの踊りには大勢の観客が押し寄せ、拍手喝采の渦に包まれました。

5月に新型コロナウイルス感染症の分類が「5類」に移行され、活気が戻りつつあります。国際ふれあいフェア来場者の方々の多くの笑顔が見られた清々しい秋の一日でした。



MY ボランティア START



長年現役ボランティアとして活躍され続けている
志賀美美子さんのお話です。

志賀美美子さんは、2001年さいたま市合併前の浦和市時代から、40年以上海外姉妹・友好都市交流事業の事業スタッフとして活動され、毎年の国際友好フェアとふれあいフェアの実行委員長として活躍されています。



トルーカ市長へ

海外への公式訪問は、1979年10月トルーカ市との姉妹都市提携調印直後、親善訪問団一員として参加され、その後1985年9月に発生したM8のメキシコ地震の災害見舞金を、市長代理としてトルーカ市長に渡すため10月に再訪問されました。その後ハミルトン、リッチモンド、ピッツバーグ、鄭州の、姉妹・友好都市も訪問されています。

ボランティア以外は、本業のお仕事の他に趣味の茶道、踊り、旅行にライオンズクラブ、自治会の活動で忙しくされていましたが、つい最近42年間の自治会活動から卒業されたそうです。

「海外姉妹都市事業に関しては、相互理解と平和のために若い方々の参加が必要で、次世代に引き継ぎ姉妹・友好都市交流を続けることこそが、次のステップに発展することになるので、このあとも継続する」としっかりした口調でお話されました。

「ボランティア活動は、私の人生においてかけがえのないものです。地域の皆さんと一緒に活動できることが幸せです」と、取材の最後に結ばれました。



市民訪問団参加者と万里の長城で



国際ふれあいフェアボランティアと共に（前列中央）



はじめましての会



10月14日（土）「はじめましての会」を、浦和駅東口コムナーレ9階第15集会所で4年ぶりに開催しました。来日間もない外国人の方々と市民の皆様との出会いの場です。外国人16名、市民17名 ボランティア14名の総勢47名の賑やかな会になりました。

前回まであった「墨で字を書こう」と「懐かしの玩具で遊ぼう」のコーナーは、コロナ感染を避けるために今回省かれ、「紙ひこうきとばし」のゲームからスタートしました。

6グループで、各自折り紙で折った紙ひこうきを飛ばし、指定着地点へ到着した合計数を競い、順位を決めるゲームです。

ゲームのあとは交流の時間で歓談しながら、折り紙で鶴と兜を折りました。

ゲームの優勝チームには、準備された大きな新聞紙で作った兜を、全員がかぶり、大リーグのエンゼルスのようにたいへん盛り上がりました。

「久しぶりに外国語を話せてうれしかった」という市民の声もありました。「全員参加のゲームは最高!」「是非また来たい」「兜の折り紙は、はじめて」と外国人の皆さんも楽しんでいました。

みんなで
ひこうき
ゲームスタート



ゲームのあとは
折り紙と
おしゃべり



優勝チーム全員が
特製兜で
記念撮影





第32回センター交流会



◀ (公社) さいたま観光国際協会 会長 (右) と国際交流基金日本語国際センター 副所長 (左)

10月19日に北浦和の日本語国際センターで第32回センター交流会を開催し、29カ国*から日本語教師38名を迎え、市民23名、ボランティア・スタッフ18名が参加しました。

冒頭の挨拶のなかで、「今回は約半年前に来日され、さいたま市民として既に住民登録を済まされ来年2月までの研修生です。また34年前にセンター開所してから日本語研修教師は1万3千名を超えている」と紹介がありました。

研修生たちは、5班に分れて椅子に座り、さいたま市観光ビデオを見た後、全員でジャンケンを行い勝者18名に羽織を贈呈。このあと15分ごとに、椅子を移動し計3回相手をかえながら、研修生とボランティアが1対1で向き合い歓談。食べ物、日本に来るきっかけ、日本での観光、日本の季節、自分の国、家族のことなど、盛り上がり記念写真を撮影する人たちも出るほどでした。次回の参考にする為のアンケート用紙に記入を終えた研修生の皆さんを、一同大きな拍手でお送り出して交流会は終了しました。

帰国後、自国で素晴らしい日本語教師として更に羽ばたかれんことを期待して止みません。

*モンゴル、インドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ラオス、インド、スリランカ、オーストラリア、エルサルバドル、キューバ、グアテマラ、コスタリカ、ニカラグア、パナマ、メキシコ、アルゼンチン、ブラジル、ペルー、ギリシャ、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、セルビア、タジキスタン、トルクメニスタン、ハンガリー、ヨルダン、エジプト



じゃんけん▲

▼会話風景



◀研修生との会話に盛りあがります



ミニ講座

✈️>>>「茶道はもはや”世界文化”」



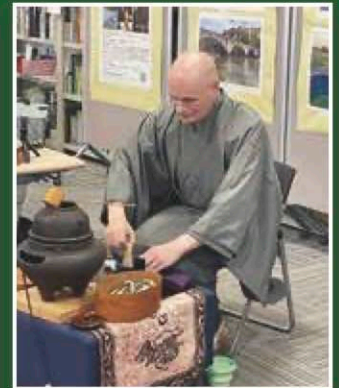
10月7日、マイケル・ハーディ氏を講師に迎えて、ミニ講座「茶道講座」が国際交流センターで開催されました (参加者：スタッフを含め約50名)。

「茶道は日本の総合伝統芸術であり、一期一会をきっかけにして、国際交流の大きな鍵となる文化である」と、着物姿のマイケル講師はジョークを交えながら茶道の神髄を話されました。

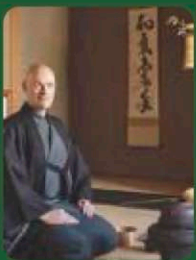
同講師が披露された“お手前”の様子は、洗練されて凛とした姿が印象に残りました。最後に、日本の盆踊りと共通の心を持ち、パーティなどで踊られるケンタッキーの“ラインダンス”を参加者全員で楽しみました。内容が濃い、学びが多い、楽しい講座でした。



講座風景



お手前の様子 (抹茶と生八つ橋がふるまわれました)



マイケル・ハーディ (裏千家茶名：宗月) アメリカ・ケンタッキー出身、2003年JETプログラムで来日、京都在住、裏千家茶道講師 (裏千家では茶道を“ちゃどう”と発音する)、2022年から京都産業大学で英語による茶道講座を担当



みんなで“ラインダンス”を楽しみました





2024年 国際交流センターイベント情報

* 予定は変更になる場合がありますので、最新の情報はHPでご確認ください。



1月 7日(日) 着物着付け体験会
27日(土) ミニ講座
(第一回 中東編)



2月 3日(土) 第22回さいたま市外国人による
日本語スピーチ大会

25日(日) 日本語ボランティア養成講座
(経験者編)

3月 16日(土) ミニ講座
(第二回 中東編)



おしゃべりサロン 参加者の皆様へ



ご参加の際は、マスクの着用をおすすめします。

【必ずお願いしたいこと】

- 体調が少しでもすぐれないと思われる方は、参加をご遠慮ください。(喉の痛み、咳、発熱、倦怠感、腹痛等)
- 事前にご自宅で検温
- こまめに手指の消毒
- 使用された椅子、机等を個々に消毒していただきますようお願いいたします。



スケジュールはHPを
ご覧ください。

詳細はこちら ▶



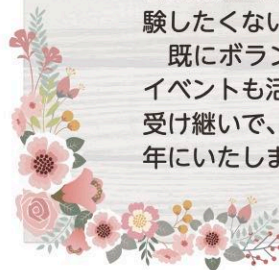
編集後記



寒き風
いちよう
銀杏散らす
たたずむ娘
真冬はこれから
白きダイヤ舞う

コロナで騒がれ、ボランティア活動も前代未聞の長期間休止の憂き目に。こんな事二度と経験したくないですね。

既にボランティア活動は平常に戻っており、イベントも活気あふれて大賑わい。この流れを受け継いで、来年はボランティア活動の飛躍の年にいたしましょう！



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルコ上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL <https://www.stib.jp/kokusai/index.shtml>

